

NEWS LETTER

2012

早稲田大学募金広報誌



WASEDA University



世界へ貢献する大学で あり続けるために



平素より、早稲田大学に対し、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

早稲田大学は長年にわたり多くの校友や篤志家の方々からのご寄付により支えられてきました。本学が1882（明治15）年の創立以来、幾多の有為の人材を世に送り出し、今日に至る輝かしい歴史と伝統を築くことができたのも、ひとえに皆様のご厚情の賜と改めて御礼申し上げます。

現在の日本は、少子高齢化の急速な進行や長引く政治・経済の停滞といった極めて厳しい状況に置かれています。それに加えて、東日本大震災と原発事故、さらにはその後に相次いだ国内外における集中豪雨等の天災地変により、甚大な被害を被っただけでなく、科学技術や社会システムのあり方、研究者の役割、さらには私たちの生き方そのものについて深刻な反省が迫られると同時に、環境・エネルギー問題など地球規模で解決されるべき問題が想像以上に深刻な段階に達していることなどを痛感させられました。

こうした困難な状況だからこそ、真理を探究し続けてきた大学には、新たな時代を切り拓くために積極的な役割を果たすことが求められています。本学は、今日の大学に課せられたこの重い使命を果たす歩みの先頭に立ち続けなければならないと強く自覚しています。そのためにすべきことは、新しい問題を、自分の頭で考え、解決していくことのできる人材を育成し、時代の変化に対処しうる先進的な研究成果をあげることです。

これらの点を踏まえ、現在、母校の創立150周年に向けた展望を皆様にお伝えすべく、「Waseda Vision 150」の策定を開始いたしました。

このたびお送りさせていただきました「NEWS LETTER」は、昨年度早稲田大学へご寄付をいただいたすべての皆様へ向けて、「Waseda Vision 150」に関する本学理事会の基本的な考え方や策定のプロセスをお知らせするとともに、震災復興支援に纏わる本学の支援活動および寄付金の受入実績や使途についてのご報告、さらには現在展開中の各種事業や教育研究活動をご紹介します。

最後に皆様のますますのご健勝を心から祈念いたしますとともに、引き続きまして本学へお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

早稲田大学総長 鎌田 薫

—世界へ貢献する大学であり続けるために—

Waseda Vision 150

の策定にあたって

早稲田大学はこの十数年間、「21世紀の教育研究グランドデザイン」「Waseda Next 125」を策定し、様々な改革を実行してきましたが、これらの改革に接続し、約20年後の創立150周年を見通した次期中長期計画「Waseda Vision 150」の策定に向けて、検討を開始しました。

これまでの改革の到達点を確認したうえで、解決すべき課題を浮き彫りにし、その解を導くための「13の核心戦略」を掲げ、具体的なアクションプランの策定を進めていくこととしました。今回は、その一部をご紹介します。

I 早稲田の Vision

世界に貢献する高い志を持った学生

世界中から集まった早稲田の学生は、学生間および教職員との相互作用による知的文化的な刺激の中で、広い教養と深い専門性を身につけ、世界に貢献する高い志を持って世に羽ばたく用意と覚悟ができています。

世界の平和と人類の幸福の実現に貢献する早稲田の研究

早稲田の研究が、人類の知を拡充・組織化し、環境・貧困・災害・紛争などの地球的課題の解決に貢献する。さらに、異文化が共生するなかで持続的発展が可能な世界を構築するための次の課題を指し示し、世界の平和と人類の幸福の実現に貢献する。

グローバルリーダーとして歓びを持って汗を流す卒業生

早稲田の卒業生（校友）が世界各国で、日本の津々浦々で、政治、経済、学問、文化、スポーツ、地域活動等の様々な分野のグローバルリーダーとして、また分野を超えた多国籍プロジェクトリーダーとして、あるいは自立した精神をもって地域社会を支える市民として、歓びを持って汗を流す。



<絵・藪野 健>

II 早稲田の Vision を実現するための核心戦略

- | | | |
|-------------------------|---------------------------|-----------------------|
| ■ 入試制度の抜本的改革 | ■ グローバルリーダー育成のための教育体系の再構築 | ■ 新たな教育・研究分野への挑戦 |
| ■ 教育内容の公開と多言語化 | ■ 世界の早稲田人としての誇りを醸成 | ■ 教職員の役割と評価の明確化 |
| ■ 対話型、問題発見・解決型教育への移行 | ■ 創的研究の推進と国際発信力の強化 | ■ 財務体質の強化 |
| ■ 大学の教育・研究への積極的な学生参画の推進 | ■ 世界へ展開する教育・研究と社会貢献 | ■ 進化する大学の仕組みの創設 |
| | | ■ 新たなアカデミック・コミュニティの形成 |

早稲田大学は、特色である「多様性」「広がり」「開放性」を教育・研究の基本姿勢として、学内の改革、地域との共同、国外との連携を継続し、世界から信頼される大学となることを目指します。

早稲田 Vision150

検索

早稲田大学ホームページ

詳しい情報は大学ホームページをご確認ください。

http://www.waseda.jp/jp/news11/111220_wv150.html

2011年度事業報告および決算の概要

早稲田大学は、昨年度、東日本大震災の被災学生に対し、いち早く就学支援のための学費減免を実施したほか、「WASEDAサポーターズ倶楽部」を通じて受け入れた寄付金により奨学金の支給やボランティア活動および復興研究プロジェクトへの取り組みを行うなど、被災地域への支援をはじめとした復興支援活動を行ってきました。

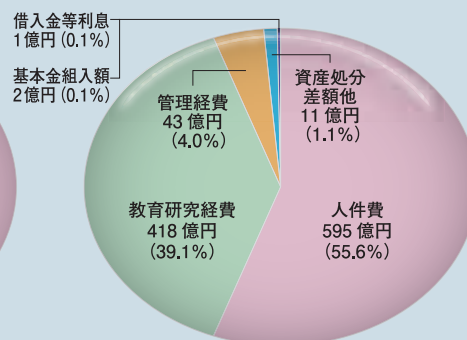
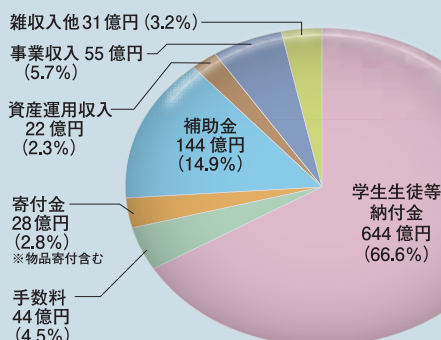
また、教育研究環境を整備・充実させるために、本庄高等学院校舎新築工事が竣工したほか、戸山キャンパス新校舎高層棟の新築工事や、各キャンパス校舎の耐震強化のため改修工事などを継続して、新たな教育研究環境の拡充や安全面での改善を図りました。



▲本庄高等学院新校舎▶

帰属収入 968億円

消費支出+基本金組入額 1,070億円



決算の概要について、収入面では学生生徒等納付金や、入学検定料などが予算を下回りましたが、補助金や寄付金、事業収入などが予算を上回り、帰属収入全体としては、予算額を59億4,700万円上回る968億円となりました。

一方、支出面では、耐震強化改修工事に伴う教育研究経費の増加や人件費の増加などにより、消費支出全体では、予算を44億7,500万円上回る1068億9,600万円となりました。

大学の活動の様子を下記よりご紹介しています。

「早稲田大学トピックス2011-2012 復興と前進」

YouTube 早稲田大学公式チャンネルにアップ！



QRコード

(早稲田大学トピックス)

・事業報告書掲載Webサイト

<http://www.waseda.jp/jp/global/guide/soumu/index.html>

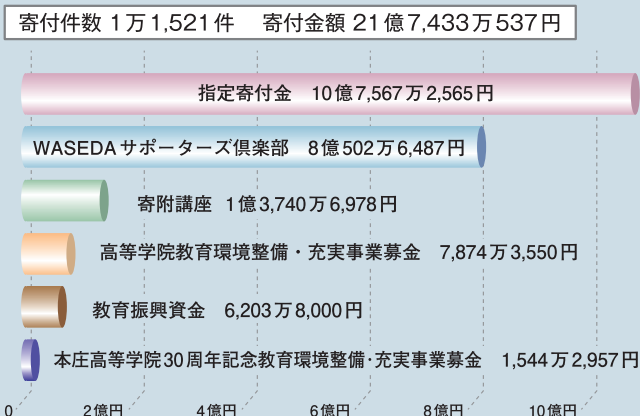
・決算掲載Webサイト

<http://www.waseda.jp/zaimu/index-j.html>

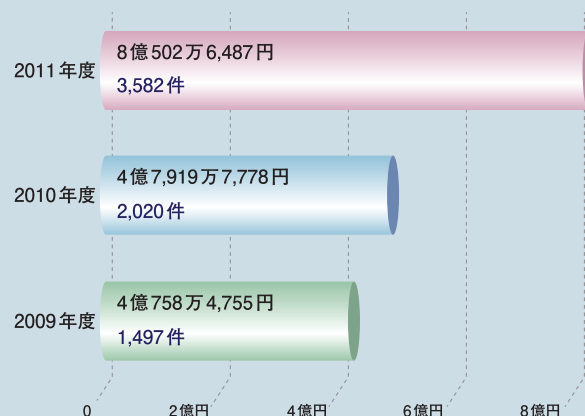
2011年度寄付金の受入実績のご報告

本学では昨年度、「WASEDAサポーターズ倶楽部寄付金」や「教育振興資金」、さらには「各種指定寄付金」などを合わせて、総額21億7,400万円(物品寄付除く)を超えるご寄付を賜り、誠にありがとうございました。本学における教育、研究、学生支援のために有効に活用させていただくとともに、次代の要請に応える人材の育成、社会との連携による共同研究開発計画の推進などを通じて、社会に還元してまいります。

【2011年度金銭寄付受入実績】



【WASEDAサポーターズ倶楽部 最近3年間の寄付件数・金額の推移】



WASEDAサポーターズ倶楽部 復興支援活動(被災学生支援) 御礼とご報告

WASEDAサポーターズ倶楽部を通して、震災後の3月24日より同年12月まで「被災学生支援」として、その後「復興支援活動(被災学生支援等)」として、ご寄付の募集を継続しており、2012年3月末日時点で、

1,485件：総額1億5,954万7,408円

のご寄付を賜りましたことをここに報告申し上げるとともに、皆様のご厚志に感謝申し上げます。

2012年度につきましても、継続的な復興支援実施のため「復興支援活動(被災学生支援等)」の募金を継続いたしますので、引き続きご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

(2013年3月末まで予定)

早稲田の絆を復興の力に

一校友、学生、教職員が連携した

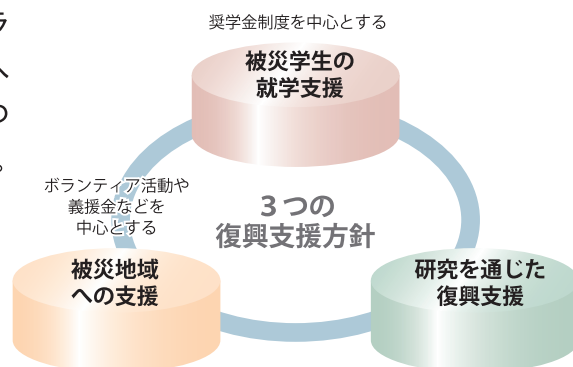
支援のかたち—



はじめよう 今から 自分から
—復興支援は続いています—

早稲田大学は『被災学生の就学支援』、ボランティアの派遣を中心とした『被災地域への支援』、『研究を通じた復興支援』の3つを柱にして、復興支援に取り組んでいます。

皆様からの復興支援活動のご協力により、
本学の3つの支援活動は支えられています。



被災学生の就学支援

東日本大震災学生支援奨学金 受給学生の声

森 夕海さん(政治経済学部3年)
※実家が大規模半壊認定

私が早稲田大学へ入学してから1年が経とうとした3月11日に大震災が起きました。家族は皆無事だったものの、その時の津波により実家は住めるような状態ではなくなっていました。家族はアパートに引っ越しましたが、母も職場を変えざるを得ず、家計が以前にも増して厳しくなっていることは、私にもわかりましたので、それまでも奨学金はもらっていましたが、「このまま大学に残れるのだろうか?」と不安に感じていました。

そのような状況のなかで、大学から被災学生のための奨学金が新設されたという連絡が入り、幸いにもこの奨学金を受給できることになりました。その時の安堵感はとても大きなものでありました。

現在は、今回の奨学金を受給できたこともあって、授業・研究や語学研修、課外活動など、一生懸命取り組むことができています。寄付をしていただいた皆様に本当に感謝しています。本当にありがとうございます。

◆ 就学支援



● 学費減免受給学生 183名
総額 1億3,800万円

● 「東日本大震災学生支援奨学金」新設
(62名受給 総額7,140万円 / 4年間)
※2011年度

被災地域への支援

本学の平山郁夫記念ボランティアセンター(WAVOC)では、震災直後から学生・教員・職員を被災地へ78回、延べ2,178名を派遣し、被災地でのボランティア活動を行いました(2011年度実績)。このような活動に対して、交通費の一部助成を行いました。

【これまでの活動紹介】

■ 1泊3日型 泥かき・がれき拾い

週末に1泊3日でのがれき拾い等の復旧作業を実施。石巻、気仙沼、陸前高田など様々な被災地で活動を展開。

■ 文化・サークル・体育各部派遣

被災地のニーズに応え、体育各部や公認サークルが被災地での様々なイベントを開催・参加。

■ 気仙沼仮設住宅支援プロジェクト

気仙沼の仮設住宅において、地域コミュニティの形成のため各種イベントを開催。

このほか、被災地主催のイベントへの参加・運営手伝い、写真洗浄、街づくり政策提言などを実施。

【今後の活動】

■ 海の照葉樹林とコミュニティづくり支援プログラム

拠点地における総合的な展開をとおした被災者の自立支援、街づくり・人材育成支援

■ 文化サークル・体育各部による音楽・学習支援・スポーツ交流等の継続支援

■ 翻訳(日本語→英語)ボランティア

このほか、現地のイベント(3月11日、お盆、クリスマス等)への参加・運営補助、WAVOCの既存プロジェクトによる支援活動を予定。

◆ 被災地域への支援



● 被災地へ計78回、延べ2,178名のボランティア派遣

● 各種復興支援プロジェクト活動の実施
※2011年度実績

■ ボランティア活動に参加した学生の声



早稲田大学グリークラブ所属 教育学部2年 岡部 大悟さん

被災地での公演活動を通じて私は貴重な経験を得ることができました。歌には人を感動させる力があることを実感できたことが特に貴重でした。演奏を聴いて涙を流す方がいらしたり、主催者の方より心のこもった挨拶をいただいたり、早稲田のOBの方々のお話を聞いたりする中で、自分がこれまで練習してきた歌が人の心を動かせることを知り、胸が熱くなりました。これからも精進するとともに、今回のような活動に積極的に参加していきたいと思いました。

人間科学研究科修士課程2年 金 学さん

私は、今年8月にWAVOCが主催する東日本大震災の復興支援活動の一環で「なとり鎮魂灯籠流し」に参加しました。最初少し驚いたことは、留学生が全参加者の約半分を占めていることでした。この活動に参加する原動力は、日本、そして日本人のことを本当に愛していることだと思います。もちろん私もその中の一人です。私は留学生として、5年前に来日しましたが、周りの日本人の方々にいろいろ本当に親切にしてくださりました。この感謝の気持ちを忘れることなく絶対いつか何らかの形で日本のために何かをしたいとずっと思っていました。WAVOCのおかげで、このような素晴らしい活動に参加できたことをとても光栄に思います。機会があれば、またぜひとも参加したいです。



■ 被災地からの声

岩手県立高田高等学校
野球部監督

佐々木 明志
(1986年教育学部卒)

東日本大震災から1年以上経ちました。学校では明るく振る舞ってくれている生徒も、家庭環境は依然厳しいものがあり、将来に不安を抱えながら日々を過ごしています。

そのような状況の中、早稲田大学野球部が陸前高田市を訪れ、生徒達と交流をしていただきました。高校生にとって年齢も近く身近な存在である大学生との交流は、厳しい環境で生活している生徒達に明日への希望と勇気を与えてくれました。子ども達が心の扉を開いて気軽に話ができる大学生ボランティアの存在はこれからもっと必要になっていくと思います。是非今後も多くの早大生が被災地で活動してくれることを期待しています。

研究を通じた復興支援

■ 東日本大震災復興研究プロジェクト一覧

研究領域	研究テーマ
医療・健康系 復興研究プロジェクト	・大震災がもたらす健康被害の予防へ向けた科学的・社会的対応のためのニーズ調査研究
インフラ・防災系 復興研究プロジェクト	・東北地方太平洋沖地震津波の被災分析と復興方略研究 ・東日本大震災復旧・復興に向けた環境診断および対策技術の提言 ・複合巨大クライシスの原因・影響・対策・復興に関する研究
都市計画・社会システム系 復興研究プロジェクト	・文化遺産から学ぶ自然思想と調和した未来型復興住宅・都市計画に関する総合研究 ・早稲田大学東日本大震災復興支援法務プロジェクト ・大規模災害への復元力のある新たなグローバル社会システムの再構築

◆ 研究助成等



● 3プロジェクト7課題にわたる「早稲田大学東日本大震災復興研究拠点」の設置

● 『「震災後」に考える』シリーズの出版

震災から1年半。

被災地では、今も、ボランティアを必要としている人々や、大学進学を目指して勉学に励んでいる受験生が大勢います。就学支援、被災地域への支援、研究を通じた復興支援を来年以降も継続して行うためには、まだまだ資金が不足しています。

『早稲田の絆を復興の力に！』

引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い致します。

Executive FORUM 2011

WASEDAサポーターズ倶楽部 エグゼクティブ・フォーラム2011
「震災が気づかせてくれたこと—国づくり、まちづくりのあり方—」

2011年11月18日(金)、WASEDA サポーターズ倶楽部特別会員(本学名誉称号贈呈者)の皆様をお招きし、「早稲田大学をご支援いただいている皆様との集いWASEDA サポーターズ倶楽部エグゼクティブ・フォーラム2011」をリーガロイヤルホテル東京にて開催いたしました。

第一部では、北川正恭氏(本学大学院公共経営研究科教授)による「震災が気づかせてくれたこと—国づくり、まちづくりのあり方—」と題した講演会を実施。また、講演会后、被災地にてボランティア活動を行ってきた学生の活動報告および、本学学生部長による被災学生支援奨学金に関する報告も行われました。

第二部の懇親会には、本学の役員をはじめとする教職員に加え、スポーツ界や政界など活躍の著名校友の方々と、現役の体育各部の学生たちも参加。特別会員の皆様と大学関係者や学生・著名校友の方々が、そして特別会員の皆様同士が和やかな雰囲気の中で、意見を交換・交流をされておりました。ここでは北川氏の講演を中心に、当日の様子をご紹介します。



■ 講演者

北川 正恭(きたがわ まさやす)

早稲田大学大学院政治学研究科教授。
1972年三重県議会議員当選(3期連続)、
1983年衆議院議員当選(4期連続)。1995
年三重県知事当選(2期連続)。「新しい日
本をつくる国民会議」(21世紀臨調)代表。
2009年内閣府地域主権戦略会議構成員。

早稲田大学マニフェスト研究所HP
<http://www.maniken.jp/>

◎震災の現場で体験したこと

東日本大震災の発生した2011年3月11日に、私は仙台市内で講演をしていました。

地震が起きた瞬間に「これは大きいな」

と思いましたが、その後かなり激しく揺れて、これは大変なことになると考えました。すぐに講演は中止され、帰りの新幹線も動かないことが予想されたのでホテルの確保に向かいましたが、地震による建物の損傷、停電により部屋で宿泊することができない状態で、結局ロビーに留まることになりました。携帯電話をかけても繋がらず、交通もダメ、電話もダメ、停電ですから電気もダメ、という具合に一番の情報過疎地帯は被災地の現場であることを痛感しました。

しかしこういった状況でも、ホテルの従業員の方の計らいで夕食を頂戴したことや、ホテルのイベントホールのようなところで毛布と枕を頂けたことに、心がポッと温くなりました。従業員の方々も仙台にお住まいでご自身も被災されているのですが、辛さなどはおくびにも出さずに、まさに「滅私奉公」尽くしてくれて、避難民がこんなにお世話になっているのかと思いました。

翌日は県庁に避難したのですが、県庁の職員も必死に我々の面倒を見てくれて、日本が持つ現場の力、素晴らしさを感じることができました。このような非常事態においても皆が秩序正しく行動している現場を目の当たりにして、日本の

持つ力というのはそのようなところにあるということを確信しました。

日本が明治維新以来、中央集権体制のもとに工業国家を目指し、また戦後何もないところから高度経済成長を目指したというのは非常に立派な政策であり、今日の豊かさをつくったことは間違いないと思います。

しかし、国家命令のもとに全国一律の政策を実施していく単線型の社会では、とにかくまず豊かになることが第一義でありました。それがなければ今の豊かな長寿社会は実現できなかったのですが、あの震災を経験して、私はもう一方でそれとは別の、「穏やかな社会」も用意しておかなければいけないと感じました。つまり、これまでの成長社会から成熟社会として、単線型を複線型に、リダンダンシー(冗長性)を持った社会への移行を、これから日本は真剣に考えていかなければいけないというわけです。

◎単線型社会から複線型国家へ

私も震災からの復興にあたり、国→県→市町村という一直線の縦の管理体制とは別に、全国の自治体の首長や議員の方々に連絡を取って、自治体同士の防災協定を活用したり、現場の具体的な要望



▲総合司会は本学校友の下平さやか氏

を言い合えるようにするなど、ルールなしで柔軟に対応していこうと働きかけました。

そういった水平的な動きが盛んに行われたことで復興が大幅に早まったのは事実ですから、成熟社会においては「国→県→市町村」という縦の行政体制に加えて横の水平的なつながりも整え、地域間でお互いが協力していく必要があると感じます。ボランティアに関しても、早稲田大学の若い学生達が東北地方で懸命に活動してくださっていることはとても尊いことだと思いますが、そういった横断的なやり方を、自治体においても真剣に



▲第二部に参加する「早稲田スポーツ」を担う体育各部の学生たち

確立しなければいけないと痛切に教えられたところです。

東北地方の知事、市長・村長たちの中には、今までは国に甘えていて首長としての自覚のない方もいたと思います。しかし、今回の非常事態を経験して、地域の統括者としての責任に目覚めた方も多いのではないのでしょうか。従来型の国にすべてを頼っている首長がいる自治体と、自身の責任に目覚めた首長のもと、行政が動き始めた自治体とでは、これから先大きな違いが生まれていくでしょう。このような動きは、実は日本全体でもうすでに起こっていて、従来型の自治体は沈んでいくと思います。

私は現在、内閣府の地域主権戦略会議という会議のメンバーです。そこで当事者として参加している私は、これから日本が中央集権体制に後戻りすることはおそらくなく、地方分権はより一層すすむと考えております。

政権は交代しましたが地方分権という方向は継承されております。法律においても1990年代から2000年半ばにかけて地方分権改革が推進され、地方自治に関する法体制が変更しております。

中央集権には中央集権の良さがあり、単線型の国家はそれによって見事に成し遂げられましたが、成熟社会になった時に、国は国にしかできないことのみを行い、そのもとで地域の自治体はその地域に合った政策を遂行し、中央から脱却した運営を行う。その精神がこの国を強くすると思います。



▲北川氏の講演後、被災地でのボランティアの活動報告が学生よりなされた

◎早稲田から複線型社会を実現する

大震災あるいは原発という大変な問題が起きたということは、この国をもう一度つくり直すきっかけでもあると思いますので、これからの日本は成熟した複線的な社会をつくり、外国からも「日本は安全で安心な社会だ」と評価されるための教育体系をつくりあげなければいけないことを切実に感じました。

我々教職員一同には、学生が世界に通用し立派な学問を積み上げていくよう育て上げる責任がありますけれども、まさに早稲田の精神、学の独立、進取の気性という理念は、先ほど述べたような複線型社会を実現していくために必要なものではないでしょうか。

早稲田大学はその建学の精神を今一度思い起こして、権力から離れたところで学の独立を保ち、複線型の成熟社会を作り上げていく役割の一翼を担っていくことでこれからも発展していくことができるのではないかと、そのように本学の存在意義を再認識いたしました。



▲懇親会の最後は、参加者全員による校歌斉唱。成功裏に散会となった

TOPICS

高等学院の新校舎70号館に銘板設置

— 高等学院教育環境整備・充実事業募金 —

高等学院の教育向上のためにご支援を賜り、ありがとうございます。このたび、ご支援をいただいた寄付者の皆様のご芳名を銘板にて顕彰させていただきました。高等学院へお立ち寄りの際は、ぜひご覧ください。

*第一期掲載

個人：611件 法人：29件 団体：8件

(第一期：2012年1月末日までにご寄付いただいた累計が6万円以上の個人、50万円以上の法人および20万円以上の団体)

★椅子募金をはじめました。(対象：ご寄付をいただいた累計が50万円以上の個人)



▲高等学院に設置された銘板

グローバルWASEDAへさらなる飛躍を

— 早稲田大学中野国際コミュニティプラザ 2014年度オープン —

2014年度のオープンを目指して建設される早稲田大学中野国際コミュニティプラザは、教育施設では、本学のエデュケーション機能を活かして、地域社会に開かれた生涯学習の場づくりを提供します。また、日本人学生と外国人留学生とが混住する環境で相互理解や国際感覚を深める取り組みを行うための、約870名規模の学生寮機能を持たせます。同学生寮では、多様なバックグラウンドや価値観を持った人々とグローバルに関わる機会を創り出し、「新たな能力～社会人としての基礎体力～」を身に付けるためのプログラムを展開していく予定です。



▲早稲田大学中野国際コミュニティプラザ完成イメージ

早稲田大学へのご寄付は新たに税額控除の対象となり 約40%が所得税額から控除されます。

早稲田大学への個人の方からの寄付金について、新たに税額控除制度が導入されました。寄付者の皆様ご自身において、「税額控除」と「所得控除」のどちらから有利な方式をお選びいただけます。「税額控除」を選択されると、多くの方において、所得税額が従来よりも少なくなり、減税効果が大きくなります。

「税額控除」か「所得控除」のどちらから有利な方式を選択し、所得税の控除を受けられます。いずれの控除についても、本学が発行する証明書や領収書（振込用紙でご入金の方は「払込金受領証」）を添付の上、確定申告を行う必要があります。詳しくは、お近くの税務署にお尋ねください。

【税額控除】方式

$$(\text{寄付金合計額}^1 - 2,000\text{円}) \times 40\% = \text{控除額}^2$$

¹ 年間所得金額の40%が限度となります。 ² 所得税額の25%が限度となります。

【所得控除】方式

$$(\text{寄付金合計額}^3 - 2,000\text{円}) \times \text{所得税率}^4 = \text{控除額}$$

³ 年間所得金額の40%が限度となります。 ⁴ 所得税率は年間の所得金額によって異なります。

※例：所得金額が700万円の方が、年間50,000円寄付した場合の減税額
税額控除方式なら… $(50,000\text{円} - 2,000\text{円}) \times 40\% = 19,200\text{円}$
所得控除方式なら… $(50,000\text{円} - 2,000\text{円}) \times 23\% = 11,040\text{円}$
※ 所得金額が700万円の場合の所得税率

Webサイトをリニューアルしました — 早稲田大学を通じて人材育成・社会貢献をお考えの皆様へ

早稲田大学は長年にわたり多くの校友や篤志家の方々からのご寄付により支えられてきました。このたび、本学募金Webサイトを大幅にリニューアルいたしました。掲載しているコンテンツを充実させ、手続きもわかりやすくなりました。これまでに引き続き、皆様のご支援をお待ち申し上げております。

早稲田 寄付

検索

または下記URLにアクセスしてください。

<http://kifu.waseda.jp/>



寄付できるお申込み方法が増えました

国際ブランドのクレジットカードでの決済やインターネットバンキング決済が可能になりました。

※寄付の種類により決済可能なお申込み方法が異なります。詳しくはウェブサイトをご覧ください。

● クレジットカード決済



● インターネットバンキング決済

寄付者からのメッセージをサイトに掲載いたします

Webからご寄付をいただいた皆様のメッセージを随時掲載いたします。

※メッセージは任意です。

【HOMEページ】



【寄付者メッセージ】



感謝の声や寄付者インタビューを掲載いたします

本学の研究者や学生からのご寄付に対する感謝の声やご支援をいただいている寄付者の方へのインタビューの様子をお伝えします。

【感謝の声～奨学生の声】



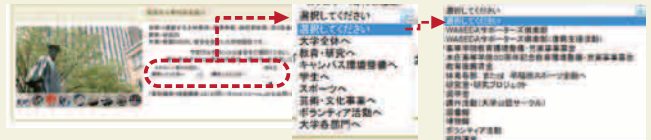
【感謝の声～研究者の声】



Webでお申込みできる寄付種類が増えました

本学への各種寄付のお申込みが可能になりました。
※法人様のお申込みも対応しております（銀行振込のみ）

【ページ：寄付をする】



皆様に支えられ飛躍する WASEDAへ

WASEDAサポーターズ倶楽部

WASEDA SUPPORTERS' CLUB

「教育環境整備」「スポーツ支援」「奨学金」など、学生支援を始めとした、大学の各種事業への恒常的な財政支援になります。使途につきましては、大学が厳正に審査し、決定いたします。

会員証



■「早稲田講義録」の贈呈

著名校友、本学教職員が行った講演を紙面にて再現して提供いたします。

■ホームカミングデー・稲門祭のご招待

毎年10月下旬に開催される校友対象のイベントにご招待します。

■本学中央図書館の利用（会員証提示）

大学が誇る中央図書館にご入館いただけます。※閲覧・複写のみのご利用となります。

■オリジナルグッズの送付（年1回）

会員だけが手にできる「オリジナル・ワセダグッズ」をプレゼントします。

■「UniShoop 125」の優待利用（会員証提示）

ワセダグッズ購入時に割引特典（5%）が受けられます。

※一部商品は割引対象外となる場合がございます。※「Uni.Cafe 125」での飲食のご利用はできません。

■「リーガロイヤルホテル東京」の優待利用（会員証提示）

ご宿泊、レストラン&バー代金の割引特典が受けられます。※一部除外日があります。

■エクステンションセンターオープンカレッジ入会金割引（会員証提示）

会員の皆様は、通常8,000円の入会金が6,000円になります。

ご寄付のお申込みは専用の自動振替申込書または振込用紙をお使いください。大学Webサイトからもお申込みいただけます。



学校法人 早稲田大学

〒169-8050 東京都新宿区戸塚町1-104

WASEDAサポーターズ倶楽部および各種寄付に関するお問合せ

● WASEDAサポーターズ倶楽部事務局

T E L : 03-3202-8049

F A X : 03-5286-9801

E mail : w.supporters@list.waseda.jp

● 総長室募金課

T E L : 03-3202-8844

F A X : 03-5286-9801

E mail : kifu.ml@list.waseda.jp

遺贈による寄付制度のご案内

早稲田大学は遺言によるご寄付（遺贈）も承っております。遺言を残すことにより、ご自身の財産の全部または一部を法定相続人以外の特定の個人や団体に譲渡することができます。これまで築かれた財産を、21世紀の日本を担う人材育成のためにご活用くださいますよう、是非ご検討ください。資料請求・詳細につきましては、総長室募金課までお問い合わせください。

